

日清オイリオグループ株式会社 決算補足資料

2022年度（2023年3月期） 第3四半期

1. 決算概要
 - 1-1. 2022年度 第3四半期決算
 - 1-2. セグメント別実績
 - 1-3. セグメント情報：売上高・営業利益の増減要因（対前年同期比）
 - 1-4. セグメント情報詳細
2. 2022年度業績予想
 - 2-1. 2022年度業績予想
 - 2-2. 2022年度セグメント別予想
 - 2-3. セグメント情報：売上高・営業利益の増減要因 通期予想（対前期比）
 - 2-4. セグメント情報詳細

1. 決算概要

1-1. 2022年度 第3四半期決算

単位：百万円

	2022年度 第3四半期	2021年度 第3四半期	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	425,092	313,634	+111,458	+35.5%
海外売上高比率	23.5%	20.5%	+3.0P	—
営業利益	14,701	9,254	+5,446	+58.8%
売上高営業利益率	3.5%	3.0%	+0.5P	—
経常利益	14,755	10,266	+4,488	+43.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	10,972	7,331	+3,641	+49.7%

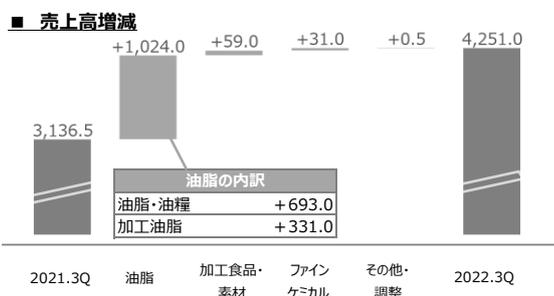
1-2. セグメント別実績

単位：百万円

	2022年度 第3四半期	2021年度 第3四半期	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	425,092	313,634	+111,458	+35.5%
油脂	359,275	256,870	+102,404	+39.9%
油脂・油糧	266,390	197,076	+69,314	+35.2%
加工油脂	92,884	59,794	+33,090	+55.3%
加工食品・素材	48,107	42,226	+5,880	+13.9%
ファインケミカル	15,743	12,620	+3,123	+24.7%
その他・調整	1,965	1,916	+49	+2.6%
営業利益	14,701	9,254	+5,446	+58.8%
油脂	13,350	6,881	+6,469	+94.0%
油脂・油糧	7,969	3,616	+4,353	+120.4%
加工油脂	5,380	3,264	+2,116	+64.8%
加工食品・素材	460	1,529	△1,068	△69.9%
ファインケミカル	1,252	1,165	+86	+7.4%
その他・調整	△362	△321	△40	—

1-3. セグメント情報：売上高・営業利益の増減要因（対前年同期比）

単位：億円



<売上高増減要因>

- 油脂
 - 原料コスト上昇を受けた販売価格の改定(↑)
 - ホームユース製品の販売数量増(↑)
 - ミールの販売数量増および販売価格の上昇(↑)
 - 海外子会社の為替換算影響(↑)
- 加工食品・素材
 - チョコレート製品、MCT製品、大豆素材・食品製品の販売価格改定(↑)
 - 海外子会社の為替換算影響(↑)
- ファインケミカル
 - ファインケミカル製品の販売価格の改定(↑)
 - アルコール製剤の販売数量増(↑)



<営業利益増減要因>

- 油脂
 - 油脂・油糧および加工油脂における原料コストの上昇(↓)
 - 原料コスト上昇を受けた販売価格の改定(↑)
 - 海外子会社の為替換算影響(↑)
 - パーム油取引の時価評価益の減少(↓)
- 加工食品・素材
 - チョコレート製品における原価率の上昇および調製品の販売数量減(↓)
 - 調味料、MCT製品、大豆関連製品における原料コスト上昇(↓)
 - 調味料およびMCT製品における販管費の増加(↓)
- ファインケミカル
 - 販売価格の改定および欧州子会社の販売数量増(↑)
 - 原料コストの上昇および新工場稼働に伴う減価償却費負担増(↓)
 - 衛生製品における原料コスト上昇(↓)

1-4. セグメント情報詳細

単位：百万円
増減額は前年同期比

油脂（うち油脂・油種）

	売上高		営業利益 増減額	コメント
	実績	増減額		
国内油脂	157,683	+42,641	+4,239	・原料コスト上昇に伴う油脂販売価格の改定、ホームユース製品の販売数量増、ミール販売における数量増および価格上昇により増収増益。
業務用・加工用	99,681	+29,552		
ホームユース	58,001	+13,088		
ミール	83,120	+24,519		
子会社	62,719	+8,693	+121	
連結調整 他	△37,133	△6,539	△8	
油脂・油種 計	266,390	+69,314	+4,353	

補足：国内油脂に占める付加価値品

売上高構成比	売上高増減額
17%	+2,374

※業務用・加工用およびホームユースの売上高は、国内油脂売上高の内数

補足：国内油脂の営業利益増減額の内訳

単位：億円

	増減額	主な要因
販売数量要因	+1.0	業務用・加工用（△3.5）、ホームユース（+4.5）
販売単価要因	+415.5	業務用・加工用（+307.0）、ホームユース（+108.5）
コスト要因	△353.0	
大豆	△88.0	C&F（△111.5）、為替（△127.0）、ミール販売（+150.5）
菜種	△185.5	C&F（△155.5）、為替（△89.0）、ミール販売（+59.0）
その他商品・製造費	△79.5	パーム油等のコスト上昇 等
販管費・その他	△21.0	
合計	+42.5	

単位：百万円
増減額は前年同期比

油脂（うち加工油脂）

	売上高		営業利益 増減額	コメント
	実績	増減額		
海外加工油脂	98,548	+38,636	+2,417	・販売価格の上昇および為替換算影響により増収。 ・原料コストの上昇、パーム油取引の時価評価（当期+15.0億円、前期+21.5億円）による減収要因があったが、チョコレート用油脂の販売数量増、販売単価上昇に加えて、為替換算影響により増益。
欧州	42,456	+18,524		
アジア	49,289	+16,569		
その他地域	6,801	+3,542		
国内加工油脂	10,028	+2,647	△316	・販売価格の改定により増収も、原価上昇により減収
連結調整 他	△15,692	△8,193	+14	
加工油脂 計	92,884	+33,090	+2,116	

補足：海外加工油脂の販売数量増減率（増減率は前年同期比）

	販売数量増減率
海外加工油脂	△4%
欧州	△9%
アジア	△2%
その他地域	+24%

補足：海外加工油脂に占めるチョコレート用油脂を中心としたスペシャルティファット

売上高構成比	販売数量増減率
37%	+3%

単位：百万円
増減額は前年同期比

加工食品・素材

	売上高		営業利益 増減額	コメント
	実績	増減額		
チョコレート	25,393	+3,772	△406	・海外子会社の為替影響等により増収も、原価率の上昇により減収
調味料	3,424	+77	△52	・販売価格改定により増収も、原料コスト上昇と販管費増加により減収
機能素材・食品	5,981	+656	△400	・MCTの販売価格改定により増収も、原料コストの上昇および販管費の増加により減収
MCT	4,609	+712		
大豆素材・食品	16,242	+1,765	△206	・販売価格改定により増収も、原料コストの上昇等により減収
連結調整 他	△2,934	△391	△2	
加工食品・素材 計	48,107	+5,880	△1,068	

※MCTの売上高は機能素材・食品売上高の内数

単位：百万円
増減額は前年同期比

ファインケミカル

	売上高		営業利益 増減額	コメント
	実績	増減額		
ファインケミカル製品	12,825	+3,636	+157	・販売価格の改定および子会社における販売数量増により増収増益
環境・衛生	5,490	+134	△52	・販売数量増により増収も、原料コストの上昇により減収
連結調整 他	△2,571	△647	△18	
ファインケミカル 計	15,743	+3,123	+86	

※化粧品原料の売上高はファインケミカル製品売上高の内数

補足：化粧品原料

売上高	増減額
7,698	+2,137

主な換算為替レート（期中平均レート）

	円/USD	円/EUR	円/MYR	円/CNY	円/IDR
2021年度第3四半期	111.14	130.60	26.30	17.26	0.0078
2022年度第3四半期	136.49	140.60	30.56	19.88	0.0091

2. 2022年度業績予想

2-1. 2022年度業績予想

単位：百万円

	2022年度 見直し①	2021年度 実績②	前期比		2022年度 11月開示③	計画比(対11月開示)	
			増減額(①-②)	増減率		増減額(①-③)	増減率
売上高	550,000	432,778	+117,221	+27.1%	500,000	+50,000	+10.0%
営業利益	14,700	11,670	+3,029	+26.0%	13,000	+1,700	+13.1%
経常利益	15,000	12,648	+2,351	+18.6%	13,300	+1,700	+12.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,800	8,595	+1,204	+14.0%	9,200	+600	+6.5%

2-2. 2022年度セグメント別予想

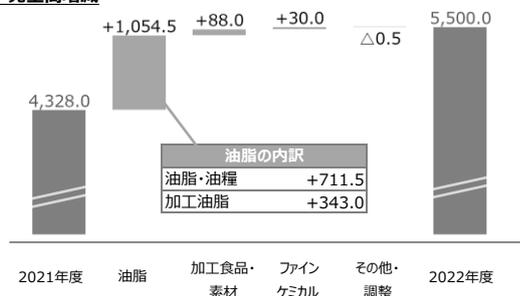
単位：百万円

	2022年度 見直し①	2021年度 実績②	前期比		2022年度 11月開示③	計画比(対11月開示)	
			増減額(①-②)	増減率		増減額(①-③)	増減率
売上高	550,000	432,778	+117,221	+27.1%	500,000	+50,000	+10.0%
油脂	460,500	355,026	+105,473	+29.7%	416,500	+44,000	+10.6%
油脂・油糧	339,000	267,840	+71,159	+26.6%	306,500	+32,500	+10.6%
加工油脂	121,500	87,186	+34,313	+39.4%	110,000	+11,500	+10.5%
加工食品・素材	67,000	58,185	+8,814	+15.1%	63,000	+4,000	+6.3%
ファインケミカル	20,000	17,003	+2,996	+17.6%	18,000	+2,000	+11.1%
その他・調整	2,500	2,563	△63	△2.5%	2,500	0	-
営業利益	14,700	11,670	+3,029	+26.0%	13,000	+1,700	+13.1%
油脂	13,300	8,975	+4,324	+48.2%	11,800	+1,500	+12.7%
油脂・油糧	8,600	4,716	+3,883	+82.4%	8,400	+200	+2.4%
加工油脂	4,700	4,258	+441	+10.4%	3,400	+1,300	+38.2%
加工食品・素材	600	1,672	△1,072	△64.1%	500	+100	+20.0%
ファインケミカル	1,250	1,336	△86	△6.5%	1,200	+50	+4.2%
その他・調整	△450	△314	△135	-	△500	+50	-

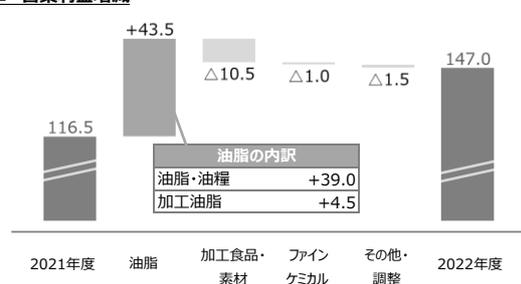
2-3. セグメント情報：売上高・営業利益の増減要因 通期予想(対前期比)

単位：億円

■ 売上高増減



■ 営業利益増減



<売上高増減要因>

- 油脂
 - ・原料コスト上昇を受けた油脂販売価格の改定(↑)
 - ・ホームユース製品の販売数量増(↑)
 - ・ミールの販売数量増および販売価格の上昇(↑)
 - ・海外子会社の為替換算影響(↑)
- 加工食品・素材
 - ・チョコレート製品、MCT製品、大豆素材・食品製品の販売価格改定(↑)
 - ・海外子会社の為替換算影響(↑)
- ファインケミカル
 - ・ファインケミカル製品の販売価格の改定(↑)
 - ・アルコール製剤の販売数量増(↑)

<営業利益増減要因>

- 油脂
 - ・油脂・油糧および加工油脂における原料コストの上昇(↓)
 - ・原料コスト上昇を受けた販売価格の改定(↑)
 - ・海外子会社の為替換算影響(↑)
 - ・パーム油取引の時価評価益の減少(↓)
- 加工食品・素材
 - ・チョコレート製品における原価率の上昇および調製品の販売数量減(↓)
 - ・調味料、MCT製品、大豆関連製品における原料コスト上昇(↓)
 - ・調味料およびMCT製品における販管費の増加(↓)
- ファインケミカル
 - ・販売価格の改定および欧州子会社の販売数量増(↑)
 - ・原料コストの上昇および新工場稼働に伴う減価償却費負担増(↓)
 - ・衛生製品における原料コスト上昇(↓)

2-4. セグメント情報詳細

単位：百万円
増減額は前年同期比

油脂（うち油脂・油種）

	売上高		営業利益 増減額	コメント
	予想	増減額		
国内油脂	206,947	+48,775	+3,884	・原料コスト上昇に伴う油脂販売価格の改定、ホームユース製品の販売数量増、ミール販売における数量増および価格上昇により増収増益。
業務用・加工用	131,630	+33,602		
ホームユース	75,316	+15,172		
ミール	109,269	+30,997		
子会社	81,205	+8,647	+23	
連結調整 他	△58,423	△17,260	△24	
油脂・油種 計	339,000	+71,159	+3,883	

補足：国内油脂に占める付加価値品

売上高構成比	売上高増減額
16%	+2,939

※業務用・加工用およびホームユースの売上高は、国内油脂売上高の内数

補足：国内油脂の営業利益増減額の内訳

単位：億円

	増減額	主な要因
販売数量要因	△3.5	業務用・加工用（△7.0）、ホームユース（+3.5）
販売単価要因	+498.0	業務用・加工用（+365.5）、ホームユース（+132.5）
コスト要因	△421.0	
大豆	△117.5	C&F（△135.0）、為替（△177.0）、ミール販売（+194.5）
菜種	△184.5	C&F（△135.5）、為替（△126.0）、ミール販売（+77.0）
その他商品・製造費	△119.0	パーム油等のコスト上昇 等
販管費・その他	△34.5	
合計	+39.0	

単位：百万円
増減額は前年同期比

油脂（うち加工油脂）

	売上高		営業利益 増減額	コメント
	予想	増減額		
海外加工油脂	130,490	+42,569	+664	・販売価格の上昇および為替換算影響により増収。 ・原料コストの上昇、パーム油取引の時価評価（当期+5億円、前期+27億円）による減収要因があるも、チョコレート用油脂の販売数量増、販売単価上昇等により増益。
欧州	53,569	+20,639		
アジア	66,223	+16,102		
その他地域	10,696	+5,826		
国内加工油脂	13,564	+3,627	△173	・販売価格の改定により増収も、原価上昇により減収
連結調整 他	△22,555	△11,884	△49	
加工油脂 計	121,500	+34,313	+441	

補足：海外加工油脂の販売数量増減率（増減率は前年同期比）

	販売数量増減率
海外加工油脂	△6%
欧州	△11%
アジア	△6%
その他地域	+46%

補足：海外加工油脂に占めるチョコレート用油脂を中心としたスペシャルティファット

売上高構成比	販売数量増減率
37%	+10%

単位：百万円
増減額は前年同期比

加工食品・素材

	売上高		営業利益 増減額	コメント
	予想	増減額		
チョコレート	34,510	+4,626	△258	・海外子会社の為替影響等により増収も、原価率の上昇により減収
調味料	4,531	+109	△47	・販売価格改定により増収も、原料コスト上昇と販管費増加により減収
機能素材・食品	8,265	+1,251	△474	・MCTの販売価格改定により増収も、原料コストの上昇および販管費の増加により減収
MCT	6,361	+1,215		
大豆素材・食品	23,413	+3,341	△278	・販売価格改定により増収も、原料コストの上昇等により減収
連結調整 他	△3,722	△514	△13	
加工食品・素材 計	67,000	+8,814	△1,072	

※MCTの売上高は機能素材・食品売上高の内数

単位：百万円
増減額は前年同期比

ファインケミカル

	売上高		営業利益 増減額	コメント
	予想	増減額		
ファインケミカル製品	16,854	+4,313	+23	・原料コスト上昇の影響はあるが、販売価格改定により増収増益
環境・衛生	6,947	△77	△89	・高機能製品の販売数量減と原料コストの上昇により減収減益
連結調整 他	△3,801	△1,239	△20	
ファインケミカル 計	20,000	+2,996	△86	

※化粧品原料の売上高はファインケミカル製品売上高の内数

補足：化粧品原料

売上高	増減額
10,128	+2,306

主な換算為替レート（期中平均レート）

	円/USD	円/EUR	円/MYR	円/CNY	円/IDR
2021年度	112.39	130.55	26.52	17.51	0.0078
2022年度	136.14	140.58	30.52	19.84	0.0091

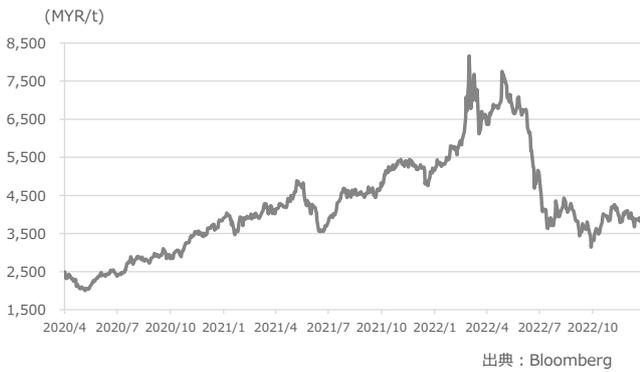
■ シカゴ大豆相場



■ ICE菜種相場



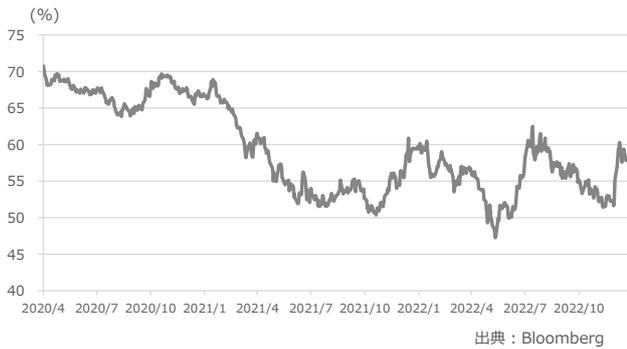
■ バーム原油相場



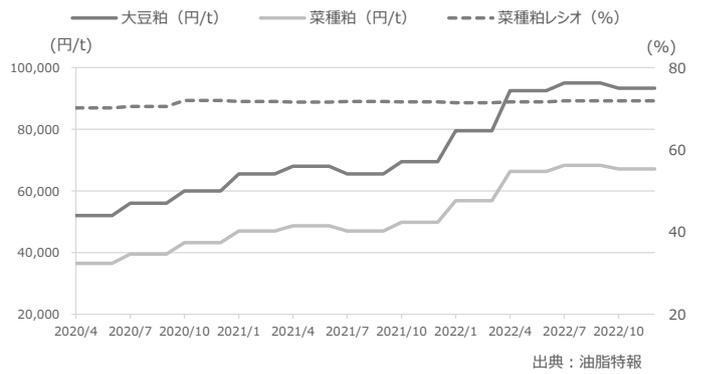
■ 為替相場 (円/ドル)



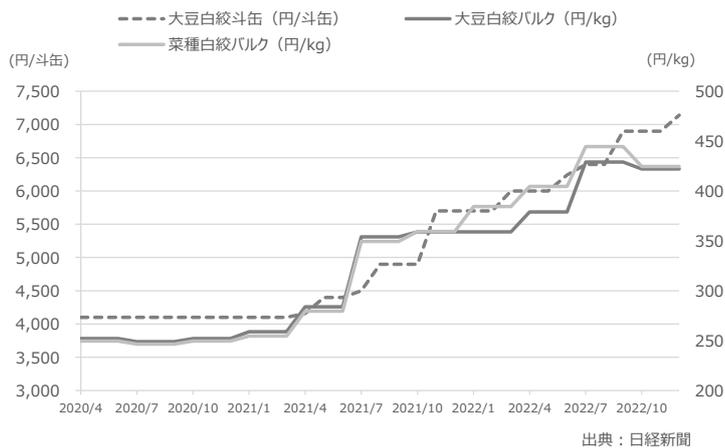
■ ミールバリュー推移



■ ミール業界平均価格

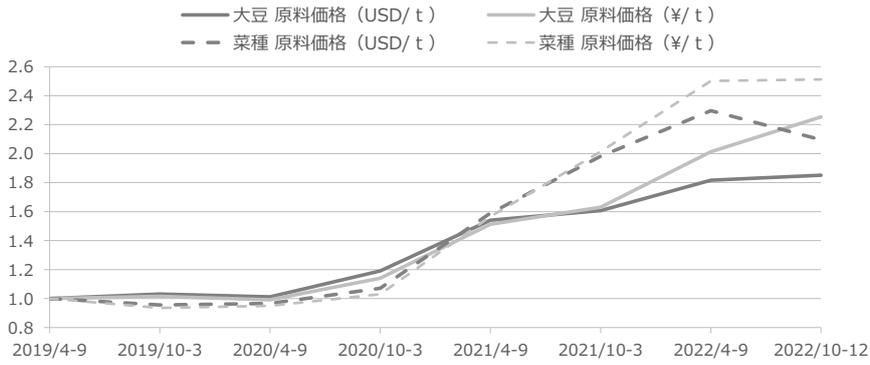


■ 日経市中相場 (業務用斗缶)

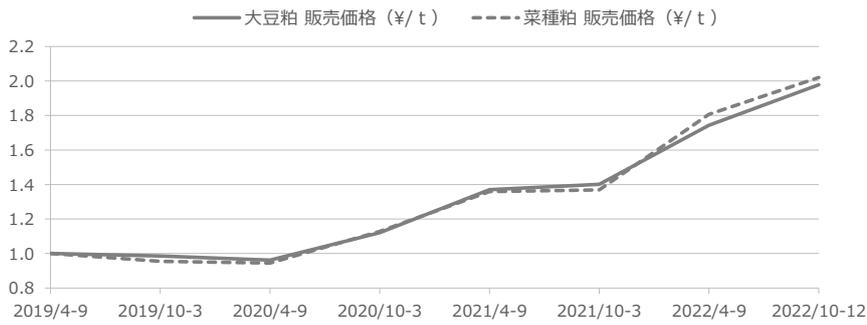


※2019年4-9期を1とした指数
出典：日清オイリオグループ(株)の数値

■ 原料（大豆・菜種）



■ 油粕（大豆・菜種）



■ 油脂主要商品の販売価格（ギフトを除く、加重平均単価）

